

令和2年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

学校番号	60	学校名	静岡県立池新田高等学校	記載者	伊藤 裕司
------	----	-----	-------------	-----	-------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	基本的な生活習慣を身につけ、規律ある思いやりあふれた人間を育成する	他者の話をしっかりと聴くことができる生徒 80%以上	A	A	来校時、生徒たちのあいさつと笑顔にほっとした。 社会生活を営む上で大切な事柄が高い達成率で素晴らしい。 身だしなみに関する生徒のアンケート数値が大幅に向上している。来校時の印象もよいので、引き続きご指導願いたい。
		身だしなみを自ら正す生徒 90%以上	A		
		自ら挨拶をする生徒 90%以上	B		
		欠席率 1.5%以下 遅刻率 0.8%以下	B	B	「共生・共育」は本校の特色の一つであり、全校で取り組むべき課題である。 「共生・共育」について分校の生徒からは高評価なので、池高側も引き続き取り組んでほしい。
		共生・共育から学ぶことが多いと実感する生徒 80%以上	B		
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進し、学習意欲を喚起する	授業中に教員が褒めたり励ましてくれたりすると感じる生徒 80%	B	A	教員が多忙な中、生徒個々への対応は大変だと思うが、頑張っている。 コロナ禍で生徒と教員、生徒と生徒、教員と教員の接点が少なくなったのではと心配したが、アンケート結果からは影響は見られない。引き続き知恵を絞って対応をお願いしたい。 基礎学力の向上に関しては、平成29年度までは30%台、30年度が50%台となり、本年度は58%と上昇がみられる。全否定率も大幅に低下しており、大きな変化の兆しではないか。
		生徒の到達度に応じた授業を実践している職員 90%以上	A		
		授業に意欲的に取り組む生徒 90%以上	B		
		他の職員の授業を年2回以上参観する職員 80%以上	A		
		学びの基礎診断等を活用して、基礎学力が向上したと実感する生徒 80%以上	C		

		読書週間年 2 回	B	B	読書の効用を説くことはもちろんであるが、「パラっと見る」ことのできる環境を作り出しているのは素晴らしい。 パソコンやスマホの時代に、本離れが言われているが、様々な工夫がされている様子がわかる。
		図書室オリエンテーション 1 回	B		
		各学年もしくは各 HR 図書 BOX の設置	B		
		居心地の良い図書室の環境づくり	B		
ウ	自身の興味関心や特性を知り、主体的に進路実現を図る生徒を育成する	地域との連携により、地域を支えることの大切さや、働くことの意義ややり甲斐についての探究活動	A	A	「シアワセミライカイギ」「池高タイム」などでの地域の人やモノとの触れ合いを通じ、知識や経験を得ることができているのではないか。
		様々な進路先や職業について体験・考える機会の設定	A	A	チャレンジ講座や各種説明会、就業体験、学校見学等に関し、保護者の 20%が「わからない」と回答しているのが気がかりである。コロナ禍で、保護者との意思疎通が不足しているのではないか。保護者の不安を払しょくする手立てが必要である。地元の会社への就職者増加を期待したい。
		「進路だより」の発行や進路閲覧室の充実	B		
		各種説明会やインターンシップ等の進路指導、行事が十分に行われていると答える生徒 90%以上	A		
		大学進学希望者の進路課個別面談	B		
		3 年進路合同会議（検討会）	A		
		進路指導員による面接指導	A		
		一人ひとりに適した丁寧な進路指導が行われていると答える生徒 80%以上	A		
エ	学校内・外の行事や諸活動に主体的に参加し、社会に貢献する生徒を育成する	地域貢献、地域活動に参加する部活動の割合 100%	B	A	部活動に参加する生徒の割合が年ごとに増加している。 地域貢献は、各部の特色を生かした活動が良いと思う。 グッドマナーの日には、中学生の良い手本となっている。
		部活動に積極的に参加する生徒の割合 80%以上	A		

		地域「寺子屋」における小学生学習支援への生徒の参加	B	B	小学生も高校生も学びの場を奪われ大きな損失である。活動再開を待ち望みます。
		池高生チャレンジ&サポート事業を通して、校外教育活動に参加する生徒を支援するとともに、報告会等により、得られた経験知を学校で共有する。	B	B	コロナ禍で校外活動の多くが中止される中で、1人が予定されていることは評価したい。代替の活動があるとよいのだが。今後も、ぜひ継続を願いたい。
オ	安心・安全の確保のための環境づくりを推進する	保健だよりを毎月発行	A	A	基本的な生活習慣の基盤となる事柄である。 朝食摂取率は言いつづけることが大切である。 朝食摂取率は学年進行で見ると、3年生での下降傾向が見られる。1年生2年生がそれぞれ77%75%に対し、3年生になると57%となる。部活動や進路対策など、学校生活のリズムの変化があるのではないか。
		生活習慣アンケートの定期的な実施	A		
		薬学講座の実施	A		
		朝食摂取率93%以上	B		
		保健指導により健康や安全に関する高い意識を持つ生徒80%以上	A		
		校内美化に努める生徒90%以上	A	A	過去数年間のうちで最も高い数値となった。 校内がいつ来てもきれいだである。
		職員安全衛生委員毎月開催	A	A	安全管理が行き届いているようである。お座なりにならないよう、努めている様子がわかる。
		校内安全点検の定期的な実施			
		新入生オリエンテーション時に人間関係構築プログラム実施	C	A	いじめ・体罰のアンケートを保護者に対してもとっていることは素晴らしい。 1年生の学校満足度肯定率が68%と過去数年間で最高の数値であり、教員側の格段の指導成果が読み取れる。 いじめの多様化陰湿化に対応して、学校ぐるみ、家庭ぐるみ、地域ぐるみでの早期発見、対応が必要になっている。
		相談室担当者連絡会の実施	A		
	いじめアンケート（生活アンケートに含む）の定期的な実施	A			
	いじめ防止対策委員会を活用し組織的な早期対応	A			

		先生を信頼する生徒 70%以上	A	A	「信頼できる先生がいる」の肯定率が 74%でこの数値も過去数年間で最高であり、過去 7 年間の平均 63%と比較すれば歴然とした指導の充実が読み取れる。
		生徒表彰の充実	A		
		重大な交通事故 0 件	A	A	今後とも安全教育の実施を地域とともに継続してほしい。
		交通安全教室の実施	A		
		災害時の対応力を養成するため、防災訓練を実施する。	B	B	コロナ禍により実施できなかった部分もあるが、災害時に高校生は「助ける側」であることを意識付けしておくことが必要である。NPO 法人御前崎災害支援ネットワークとの連携を図ってはどうか。
		地域防災訓練への参加を促すとともに訓練参加状況を把握する。	—		
カ	地域や保護者に信頼される学校や開かれた学校づくりを推進する	学校・学年行事、部活動の状況、連絡事項を漏れなくホームページに掲載し教育活動を視覚化・ポートフォリオ化する。	A	A	地域から見ても、学校の広報活動は積極的になったと思う。広報紙の発行回数を増やして学校関係者以外が、情報を目にする機会も増えた。生き生きとした生徒の姿の発信は、学校への親近感を醸成する。
		池高 TIMES 年 10 回発行・配布	B		
		日程等の工夫による P T A 総会出席率 50%以上	—	B	計画していた行事がほとんどできない状況下では、保護者アンケートが昨年度から大きく低下してしまったことは仕方ない。1 年生の保護者は学校への関心が高い時期だであるので、PTA 活動の今後を考えたときに、より多くの情報発信が必要だと思う。
		一斉メールを教育活動の広報にも活用する。	C		
		本校の P T A 活動は活発であると答える保護者・教員 70%以上	B		
		県実施調査のストレス値(学校全体)が県平均を下回る。	A	A	ストレス値が低いことは、学校の機能が正常に働いている証である。
		節電・節水等経費の削減に努める教職員 100%	C	B	事情はあると思うが、目標値に近づける努力は必要である。過去に継続して努力した後であるので、さらなる節約は難しい側面もある。